

タイムマシンの街

text by Shinji Ishii
文いししんじ

サンダーバード2号はパープル、1号はスコット、5号はジョン。そして金沢へは、京都からサンダーバード17号に乗った。昔の名前は「らいちょう」である。

片手に提げたトランクの正体は、ポータブル型の蓄音機。背中には、蓄音機用のSPレコードを満載したリュックサック。ふだんより25キロ増のからだを引きずって「らいちょう」17号に乗りこむ。

イベントに行くのである。若者に人気のある古本屋さんで、イベントスペースにひとに集まってもらって、蓄音機で昔のレコードをかける。「昔なつかしい」「ノスタルジー」みたいなイメージをもたれがちな蓄音機だけれど、実際にレコードをプレイし、あふれだした音を浴びればとんでもない。ノスタルジーにひたっている余裕なんてない。エルヴィスの声が、マイルス・デイヴィスの孤独なトラ

ハリリー・ペラフォンテ。つきつきと、遠い闇のむこうから歩いて来、金沢の空気をふるわせて、世界最高の音楽をこの瞬間に鳴らす。金沢の夕暮れは日本海の遠波のようにしずしずと更けていく。ふりかえると八日市屋さんの顔は数十年前の子供にもどっている。

美空ひばりがうたう。「見たい、見たい、見たいだろくに、ねえ、お父つあん」。僕たちにはみえる。ひばりが盲目の父のてのひらに白いてのひらを重ねている。父の乗った船が埠頭に近づいていく。ほんものの歌は百年二百年経とうがけして古びず、たえず「あたらしさ」を更新していく。そしてこの、金沢の空気。まるで金沢自体の口が、うたっているようにきこえる。

マリア・カラスの歌が遠のいていくとともにイベントは終わった。ひばりもカラスも金沢の街が気に入って、もうしばらくその辺を散策しているようだった。館長、スタッフのみなさんと、「大関」という古い大衆割烹へいった。百歳ほど生きた先代の店長が、透明な姿で、いつもの席でお店番している。大皿のおでんがはこばれてくる。昔、皿の上におでん種を並べながら、マンタラについて解説してくれた、もと坊さんのホームレスを知っている。「え

ンペットが、雷鳴のように空気をふるわせ21世紀のこの世をゆるがす。いろんなところで書いているが、蓄音機とは、数十年前、音楽の録音されている現場の空気と、僕たちが呼吸するこの部屋の空気を、音楽というトーンネで直結させる、「タイムマシン」にはほかならないのだ。

そういえば金沢も、タイムマシンみたいな街だ。歩いていてふと、たちどまる。いま吸った空気に、前田家家臣の吐息が混じっていたふしぎじゃない。商家の薄暗い座敷で、漆塗りの杯をさしだされ、なかの地酒をふつと口にふくむとき、この場所に、グリニッジ標準時はあてはまらない、とおもう。もつともつと大きな、漢数字で目盛りの記された、和時計の時間。

会場に着く。木床のフロアにぎっしりと丸椅子が並べられていく。着物の女性がふたりえか、空、というのはつまり、だしや。だしがないと、おでんに、関係、というもんが生じないわけだ。東京の浅草で会ったけど、あの坊さんはたしか、金沢のひとじゃなかったか。この大皿のまんなかに居座る、レコード盤みたいな車麩と同じく。

カラス、ひばり、エルヴィス、ホームレスの先生も連れて、着物の友人がやっているバー「葡萄夜」へ移る。蓄音機ステージの第二部だ。ジョアン・ジルベルトのボサノヴァ、アンドレス・セゴビアのギター、サム・クックの美声。葡萄色の夜に溶けていく。僕たちはレコードのように車座にすわり、互いの顔を見、互いの声をきく。金沢とはただの街の名前でなく、

いて、舞妓さんかとおもってよく見たら、もともと知っている金沢の友人だった。空は黄色に晴れていた。この日ともにレコードをかける、金沢蓄音機ミュージアム館長・八日市屋さんは「こんな天気は金沢じゃありえない」といった。「ふだんは、手を伸ばせば雲がつかめるくらい、分厚い曇り」と。

実家がレコード屋さんだった八日市屋さんが現在、ミュージアムの館長を勤めておられるのは、なんとというか、「金沢の意志」が働いているようにしか思えない。

やがてフロアは満員になる。僕が最初にかけたのはメガネをかけたロックンローラー、パディ・ホリーのデビュー曲「ザットル・ビー・ザ・デイ」。1959年に飛行機事故で亡くなっているが、針の落ちた瞬間めざめ、音楽がつづいている間はピンピンに生きている。チャーリー・パーカー、エルヴィス・プレスリー、

この街を流れる空気、声、光の総称だ。この街に「昔」はない。あったとしても、古びて忘れ去られることがない。金沢はたえず「いま」だ。この街のひとはみんな、この蓄音機のような街で、まわりつづける人間のレコードに耳を傾けているのだ。



石川県金沢市

面積：468.64km²
総人口：466,031人(推計人口 2017年10月1日)
人口密度：994人/km²
市の木：梅
市の花：花菖蒲、サルビア、四季咲きペゴニア、インパチェンス、ゼラニウム

Profile

1966年大阪生まれ。京都在住。著書に小説「ぶらんこ乗り」「麦ふみクーツエ」「ポーの話」「みずうみ」「四とそれ以上の国」など、エッセイ「人生を救え!」(町田康共著)「熊にみえて熊じゃない」「選い足の話」、絵本に「赤ずきん」(ほしよりこ絵)など多数。

